

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372701039
法人名	医療法人社団 問端会
事業所名	グループホーム といはた
訪問調査日	平成 21 年 1 月 15 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 2月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372701039
法人名	医療法人社団問端会
事業所名	グループホーム といはた
所在地 (電話番号)	熊本県阿蘇市内牧117 (電話) 0967-32-5115

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年1月15日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤6人, 常勤換算16.1人	

## (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造・一部鉄筋コンクリート造り	
	1階建て	1階

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	200 円
	夕食	320 円	おやつ	120 円
	または1日当たり		820円	

## (4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.4歳	最低	74歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	問端内科
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉観光地の中心街で、近隣に母体法人の病院やなじみの商店があり、「日常生活の不安がなく、自由で安心できる暮らし」「ご家族や地域の方々との交流の中から、生き甲斐のある日常生活」が実現されている。入居者同士で「重かとは私が運ぶよ」「ご飯は食べなはったとだろっか」と労わり合う様子や、「寒かとおおごつね。ありがとう」と職員をねぎらう言葉がふれるホームである。リビング壁面には、入居者と職員でストーリーや季節感を考え作成した飾り付けがなされ、リビングの様様替えやおやつ作り、農作業など、多様な場面設定の中での気づきをケアに繋げていく努力が払われている。職員と入居者が作る「長寿農園」では、思わぬ能力発揮や知識の伝授を見ることができ、作業が出来ない人も、畑の見える座敷でお茶を飲みながらゆっくりと過ごしている。母体法人の病院が隣接しており、医療面の連携は密接で、入居者・家族の安心に繋がっており、ホームの前向きな向上心がケアに反映されて、安心・安全の生活が提供されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価で提案された課題は、出来ること出来ないこと、どこをどうすればよいか具体的に検討し、改善に取り組んでいる。前回の課題のうち、目隠しがカーテンのトレについては、プライバシーと安全性について職員会議で検討を重ね、現状維持という結果を出し、プライバシーの保護について再認識するとともに家族の理解を得る等、誠実な対応が出来る。収納についても改善が見られ、課題を真摯に受け止め、改善に向けた取り組みがみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で1項目ずつ検討し取り組んでいる。職員は「求められていることが認識でき、多岐に渡って意識の改善になった」と感想を持っており、課題を具体化することでモチベーションを上げ、サービス向上に繋がっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、区長・民生委員・行政・保育園・近隣住民・入居者・家族代表等が参加し、2ヶ月に1度開催している。ホームの活動状況や入居者の状況などを説明し、連携・協力依頼を行うなど有効に機能している。入居者と接してもらい機会を多くし、知っていただきたいの思いからホームのリビングで開催し、ホームの機能、認知症についての理解が深まっている。今後、見学会や地域包括センター、社会福祉協議会、認知症サポーター等の会議参加への働きかけも検討しており、運営推進会議の有意義な活用への意欲がみられる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や行事等で、職員が積極的に声掛けてコミュニケーションを図り、家族の意見・要望を汲み取り、サービスに反映する努力が行われている。暮らしぶりや様子を写真や口頭で細やかに報告し、状況変化時は電話での早めの報告を心がけることで、家族との信頼関係を築いている。家族アンケートには安心と感謝の言葉が多数見られ、満足度が高いことが伺える。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣にはガソリンスタンドやなじみのスーパー等があり、散歩や買い物時に気軽に挨拶を交わし、町内会の清掃活動には職員と利用者が積極的に参加しており、地域の中で安心して自分らしく生活することが実現されている。職員の家族が提供する土地で「長寿農園」を営み、地域や子ども達との交流や街並みを飾る花苗を育てる企画を実施するなど、地域で支え合う関係作りへの意欲も高く、今後の地域での活躍が期待される。</p>

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	穏やかで安らぎのある暮らし、思いや意思が尊重される暮らし、健康に対して不安がなく事故のない暮らしを謳った従来の理念に加え、「地域の方と自然な交流が出来る暮らし」と、地域との交流の中で生きがいのある日常生活支援を明文化し、地域密着型サービスとしての役割を踏まえた内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践す「人づくり」の職員教育が実施されており、理念が「どう対応すべきか」と日々の介護の拠り所とし、日常生活の場面でどのように活かされているか、職員ミーティングの際に話し合い、確認が行われている。意識を統一することで、ケアの質が向上し職員間の協力体勢が整ったとの実感も得られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣には、ガソリンスタンドや喫茶店、花屋、スーパーなどがあり、散歩や買い物時に気軽に挨拶を交わし、町内会の清掃活動には職員と利用者が積極的に参加している。また、独居老人の会に定期的に出向き、カラオケや体操などで交流を行ない、職員と利用者で作る「長寿農園」では、街並みを飾るための花苗を育てる社会貢献の構想も考えられている。	○	「長寿農園」で地域の方や子ども達との作業交流を検討されているが、そこでの収穫物等を、地域の婦人会や子ども会等と合同でホーム前のスペースでバザー販売を行うなど、循環型の活動で、より一層地域との繋がりが構築されると思われる。また、「こども110番」の指定など、地域の拠点となる社会貢献も可能と考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で1項目ずつ検討し取り組んでおり、外部評価の意義を理解し、サービス向上に意欲的であることが伺える。外部評価結果は運営推進会議や家族会で報告し、改善点は職員会議で検討を重ね、真摯に受け止め改善に取り組み、職員のやる気は家族の理解と信頼を得ている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の第2水曜日に区長、民生委員、行政、保育園、近隣住民、入居者、家族代表等の参加を得て会議が開催されている。会議はホームのリビングで開催され、ホームの活動状況や入居者の状況などを説明し、日常生活やホームの機能、認知症についての理解が深める機会となっている。現在、地域包括支援センターや認知症サポーターの参加も検討しており、意欲が感じられる。	○	消防署、警察、学校、郵便局、社協職員などテーマごとに多彩な参加を得ることで、多くの意見・情報交換を広めることも可能と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は、在任が長いこともあり、通信文等を持参しホームを訪れる機会も多く、情報交換や質問等を気軽に行える関係が構築されている。福祉や介護保険関連の課以外の部署との情報交換や連携を働きかけることで、より一層のサービスの質の向上に繋がると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用料等の明細書と併せて、ホームでの行事報告と、暮らしぶりや楽しい様子が見て取れる行事等の写真を同封し郵送している。面会時には口頭で近況報告をしおり、状況変化時は早めの報告を電話で行うなど、細やかにコミュニケーションを図り、家族の安心と信頼を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には担当職員がお茶を出し、会話の中で話しやすい雰囲気や関係性を作り、家族の意見・要望をくみ取る努力をしている。家族会や行事等でも、積極的に声掛けしてコミュニケーションを図ることで信頼関係を築く努力が行われている。	○	家族会のプログラムの中で、家族のみでの懇談の時間を設け、そこで出た意見や提案は「家族会の意見」として報告してもらうことで、家族の不安や悩みの共有と忌憚のない意見の表出が期待できるのではないかとと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し、全職員が常に2ユニット間を行き来し、レクレーションも合同で行い、なじみの関係を保つことを心がけている。そのため、必要に応じたユニット間の職員異動も支障なくスムーズで、職員の閉塞感の排除ともなり効果的に行われており、職員の移動後は、お互いの棟に遊びに行くなど交流を心がけ、ダメージを防ぐ配慮もみられた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会の案内を掲示板に貼り、市医師会主催の研修会には多数の職員が参加している。内部研修は、休憩時間や勤務終了後に経験を積んだ職員が中心となり意欲的に行っており、スキルアップや資格取得が励みになるよう支援されている。また、ケア中も実技の指導を行ない、自己研鑽の動機づけとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度開催される阿蘇郡市グループホーム連絡会や交流会では、事例を検討しアドバイスをし合ったり、情報交換が行われており、学びの機会となっている。担当は持ち回りになっているため、次の担当時にはホームで開催するなど、職員も参加できる機会を工夫するよう期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は、生育歴や生活環境、家族関係などを把握し、話題の統一を心がけ、ゆっくり時間をかけてコミュニケーションを重ねながら馴染みの関係を築くよう努めている。また、体験入居や家族との宿泊を行ったり、居室に本人の帽子や服を飾るなど、生活空間の再現にも気を配っている。また、クローゼットの開き戸に馴染みのない入居者には、扉を外して使用してもらおう等、生活に馴染んでもらえるよう細やかな配慮が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ズボンの伸びたゴムの入れ替えや繕い物、箸を付ける前に量を調節し残飯を少なくする工夫など「もったいない」の精神を入居者から学び、共に実行している。おしゃべりに敏感な入居者に「今日の服はかわいいね」や「地味すぎて似合わんよ」と声かけされることで、職員は常に身だしなみを整えるよう気を配り、入居者の希望に応じてマニキュアを塗ってあげるなど、共に楽しみ支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者と出来る限り一緒に過ごし、寄り添うことで本人の声を聴き思いを推察している。面会が少ないときや寂しい時に現れる言動や欲求から、別のところにある思いを汲み取る細やかな配慮が行われている。生活歴や家族の話等からも思いを推察し、気づきは記録に残し共有する努力がみられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成に当たっては、主治医や薬局・本人・家族・担当職員から情報収集し、本人が暮らしやすいように、希望に添うようにと、全職員で統一したケアを行うように考え、立案している。新たな気づきやケアの質の向上のため、2棟合同で定期的にカンファレンスを実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状態に変化が見られた場合には、随時見直しが行われている。見直しの際に問題点が見えるよう、書きやすく、見やすいように工夫されたケース記録は、発言や表情など細やかに記入できる配慮されている。プランを日常ケアで具体化できるよう個別に「日課計画表」を作成しており、迅速な対応と統一したケアが実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人母体の病院が隣接しており、医師・看護師が入居者の状況によって臨機応変な対応が可能で、医療面での体制が整っている。専門的な治療は主治医の紹介で迅速に適切な医療が受けられ、介護タクシーとの連携など、多様な支援は家族の安心に繋がっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に添っており、定期的かつ柔軟に連携が図られている。隣接病院への受診は、待ち時間等を配慮し、1日に2人ずつ、2週間に1回の受診を計画的に行い、他のかかりつけ医は往診、検査時は病院の送迎を利用し、医療に関する連絡は看護師が行うなど、かかりつけ医と親密な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を定め、入居の際説明をし、全家族に同意書を得ている。これまでの看取りの経験を基に職員の意識は高く、かかりつけ医の指示と看護師のサポートによる安心の体制が整えられている。まだまだ先のことと考えている家族に対しても、ホームのケア内容と限界などについての具体的な説明の継続を期待する。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報保護に関しては、2棟合同の定例会で話し合い周知徹底が図られている。各種記録やチェック表等は、主に事務室とリビングとを仕切るカウンターで記入し、食堂で入居者の見守りを行いながら記録する場合も、席を立つ時は事務室に持っていきようにし、人目につかぬよう配慮されていた。ケース記録に他の入居者との関わりを記録する際にはイニシャルで記入し、個人情報の取扱いに気配りがあった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを尊重し、大まかな日課を記した「日課計画表」を基に、個々のペースに合わせた生活が尊重されている。居室で居心地の良さそうな椅子にくつろいだり、リビングで好きなテレビ番組を楽しんだり、造花を作ったり、思い思いに1日を過ごされている。天候を配慮しつつ、散歩や買い物・玄関前にある足湯などの希望に添った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の興味や能力に応じて、料理の下ごしらえ、盛りつけ、後片づけなどを一緒に行っている。各テーブルに1人ずつ職員が同席し見守りつつ、話題を提供し楽しく食事が行われていた。月に2回レクレーションおやつ作りが実施され、料理に馴染みのない男性等にも積極的に働きかけ、団子やお饅頭・餃子などを職員と一緒に作り楽しんでいる。夏はかき氷が好評で、機能維持と食の楽しみを組み合わせる工夫がされていた。	○	食事やおやつ作りに関わる意識として、全員にエプロン着用を検討されているが、「母の日のプレゼント」として家族会に提案してはどうか。男性には手芸活動の時に製作した物をプレゼントするなど、愛着の持てるエプロンを着用し、おやつのみならず、おにぎりや巻きずし・カレーパンなど、家族や職員と一緒に作って楽しむ機会作りを継続されることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、大浴場には温泉を使用しており、「温泉」ということで入浴拒否もなく、入浴順も不公平にならないように職員が気を配り誘導することで、スムーズな入浴支援が実施されている。浴室までの長い廊下にはエアコンが設置され、温度差に気を配り、浴室や浴槽が広いので、床には滑り止めマットを敷き、必要に応じて浴槽の水量を調節するなど、安全への配慮が見られた。また、入浴マニュアルも工夫改善し、ケアの充実と安全管理への高い意識が伺われた。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を把握し、楽しみや生きがいを感じてもらう支援が行われている。食事の準備や後片づけ、掃除、生け花や洗濯物たたみなど、自分の役割と感じ積極的にしている入居者もいる。折り紙やちりめん細工など手芸作品は玄関ロビーや廊下に展示しており励みになっている。シャボン玉など多様な場面を用意し、いきいきとした表情、得意なことを見出し、活躍できる場面作りが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買い物その他、理髪店や美容室、季節の花見や地域の行事への参加、神社参拝・観劇・音楽会など、希望に合わせて様々な外出の機会を作っている。1人の家族がドライブに行く時に、入居者2～3人を誘い同行したり、職員と2人でお花を買いに出掛けるなど多様な支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全ての出入りを施錠せず、職員は必ず1人はフロアで所在確認を行うことで、危険を回避している。現在、無断で出かける入居者はいないが、冬季など暗くなるのが早い時期は早めの施錠をし、安全確保に努めている。面した通りは見通しが良く、隣接のガソリンスタンドや母体病院、出入りの商店などと協力連携ができています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、年に1回消防署の指導で実施。月1回は自主的に、非常灯や消火器の場所・避難順路の確認、夜間電話連絡シミュレーションなどを実施している。運営推進会議で地域の協力を呼びかけており、地域の消防団や隣接するガソリンスタンドの迅速な支援が期待できる。	○	地域の消防団との合同避難訓練や夜間想定避難訓練を検討中である。団員への認知症理解の研修働きかけ等、連携を深め、実施されることを期待する。また、火災のみでなく、風水害・地震時の避難訓練、緊急連絡のシミュレーション等も実施されることが望まれる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はその都度チェック表に記録し、1日のトータル量が把握され、食事前からお茶を飲むよう声掛けがあり、午前・午後のおやつの際にも牛乳などを取り入れながら水分摂取を図っている。カロリー制限のある入居者には、盛りつけや器を工夫し、負担がないよう配慮しつつ健康管理が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり良く、高い天井の天窓からの採光で明るい空間となっている。食堂とソファやテレビのあるリビング空間はワンフロアで広々しており、季節により入居者と話し合いながら、冬は日差しが入る窓側にリビングを、夏は涼しく過ごすために奥にと模様替えを行っている。床暖房が施され、テレビの前のソファは入居者のくつろぎの場となっており、廊下にも椅子やソファが置かれ、のんびり過ごせる工夫も見られた。オープンキッチンからの調理音や香りは五感を刺激し、室温に注意しながら換気も配慮され、居心地の良い共用空間づくりが整えられていた。	○	ディスプレイされた手芸作品や写真を観に、玄関や風呂に通じる廊下に出る入居者があるが、各棟共用空間との温度差への配慮が必要と思われる。入浴の日は玄関・廊下の温度管理をされているとのことだが、入浴以外の日も入居者が心地よくまた安全に玄関先の作品観賞が出来るよう、温度管理に配慮されたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・調度品を持ち込み、家族写真や思い出の品、椅子やテレビ・お位牌・花鉢等が置かれ、個々の好みに合わせた部屋作りとなっている。就寝や起床の時間を見計らい、前もってエアコンを入れるなど、室温にも配慮されている。入居者の症状によっては制限もあるとは思われるが、馴染みの物の持ち込みが少なく、やや寒々とした部屋が見受けられた。安全に配慮しつつも温かみが感じられるような工夫も必要と考える。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム といはた
(ユニット名)	はぎ
所在地 (県・市町村名)	熊本県 阿蘇市 内牧 117
記入者名 (管理者)	後藤 理恵
記入日	平成 20 年 11 月 28 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(1) 穏やかで安らぎのある暮らしが出来る。(2) 思いや意思が尊重される暮らしが出来る。(3) 健康に対して不安がなく事故のない暮らしが出来る。(4) 地域の方と自然な交流が出来る暮らし。の以上の事を掲げひとりひとりの「その人らしさを」支えている。	○	4項目の理念をさらに深く浸透していくように努めていく。 (4) にあげた地域との交流については具体的な内容を検討準備中である。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示すると共にミーティングや定例会はもとより日常生活の場面に、理念が活かされているか、どう対応すべきなのか全員で考えて個人が個人がほりこりをもって支援している。	○	理念を実践できる「人づくり」を大事に職員教育がなされている。外部研修、ホーム内では専門書の購読や専門知識の書類を掲示し常に視野に届くように工夫されている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へはホームの在り方取り組みを通して理解していただいている。地域の活動や行事に参加したり、ホームの食材を地元の小さな商店から購入したりと関わっている。保育園や小・中学生との交流も取り入れている。	○	ホームから地域へ又地域からホームへと行き来するだけでなく互いに一つの事を成し遂げるような取り組みが出来るように検討している。例えば町おこしや、ボランティア活動等
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	温泉を利用した足湯を設置し気軽に立ち寄っていただいている。	○	バザーの開催(入居者の手づくり作品)を通してといはたでの取り組みを理解してもらう。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の区長さんが中心となり独居老人の会に定期的に参加して楽しんでいただいている。町内会の清掃活動に参加している。	○	農園で作物づくりや花を育て収穫の喜びだけでなく、地域の方々と一緒に作業をし花苗を小・中学校や老人会、町並みの環境を美しくしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通して地域の方々との関わりを持つ取り組みを始めている。	○	グループホームの入居者の方から、地域へ向けて発信出来る事はないか？と検討中である。障害があっても役に立つ事で生きる目的となるようなことを模索中である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を職員一同で受け入れて改善すべき点は努めて改善している。	○	評価される事で各々のモチベーションが上がりより意識の向上へと繋がる。今後も継続していく必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月、第2水曜日に開催して意見交換の場としてサービス向上へ活かしている。	○	関係機関の参加がもっと増えて多種多様な意見交換の場となるように取り組んでいく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とも連携を密にしてともにサービスの質の向上を常に考えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			その時の必要性に応じた対応と勉強会や研修などを取り入れていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会に参加し職員間で情報を共有して、正しく思いやりのあるケアを学んでいる。日々の仕事の中でも気づきがあれば、話し合ったり指導したり反省したりして徹底してケアの実践をしている。	○	常に入居者さんの表情を観察し異常の発見に努めている。2つの棟の職員が定期的に移動したり、認知症に対する勉強会や資料参考など意識向上を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修会の案内を掲示板にはり必要に応じて参加。	○ 経験者や有資格者の職員を通しての勉強会やケアの実技などを取り入れていき全職員の意識向上にとりこんでいく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や交流会へ参加し勉強会や意見交換を行いサービスの向上に努めている。	○ 他のグループホームの見学なども取り入れたいと考えている。 全部の職員が交流に参加できるように機会を設けていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2つの棟を異動することでモチベーションの切り替えにつなげたり、勤務の希望を取り入れ有休の活用を行っている。 職員の各々の能力を尊重し力を発揮できるように取り組んでいる。 悩みなど問題を抱えていないか個別相談にも応じている。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各々の職員の能力や資格を活かせる環境づくりに努め、本人の希望する勉強会出席や資料の貸し出しなど行っている。 勤務など各責任者、担当をもうけやりがいをみいだせるようにバックアップも行っている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人も含めて思いを十分聞けるような環境づくりをし受け入れるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけ相手の思いを傾聴し受け止める努力を行っている。その中でも、何を一番望んでいるおられるのかを的確に判断し問題の解決に向けての努力をしている。	○ 家族関係に問題があったりする場合にはあらかじめ詳細な項目をアンケート様式にすることで相手の思いを十分にキャッチできるような配慮も考えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々の状態や状況によって最も必要と考えられる機関やサービスを見極めて対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や家族との宿泊、住み慣れた生活空間の再現や私物の持込など相談しながら、急がずに時間をかけて馴染んでいただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に寄り添いその人らしさを尊重し日常生活の出来る範囲を時間がかかっても見守り、一緒に行い援助している。生け花や漬物の塩加減など、利用者から教わる事も多く互いに支えあって生活できている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ日常の出来事や様子を伝えて安心していただく努力をしており、家族からの協力も得られている。	○	今年初めての運動会を実施し好評であった。今後は家族や地域の方への参加も呼びかけ共に楽しんで頂きたいと考えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の訴えを傾聴し互いの橋渡しを担いお互いが幸福に近づけるように支援している。状況に応じて直接対面や電話、手紙での連絡、外出・外泊・行事参加などに努めている。	○	本人と家族に加えて職員が同伴しての外出等も取り入れることでより家族の絆を深めるお手伝いが出来ればと考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、思い出の場所へ出かけたり居室に写真や手紙を飾ったり、時にはボランティアとして来所していただきお茶を一緒に楽しんでいただいたりと支援している。	○	思い出の地への外出等家族の協力が難しい場合は、職員が家族と一緒に行動することで協力が得られやすいように工夫をしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いに馴染みの関係が出来ており、それによって食事の配席や活動など行っている。利用者と職員の馴染みの関係も日常生活の場面で生かされている。利用者同士で互いの居室を訪問し合い歓談する姿もよく見受けられる。今後も更に深く関わり合いその人らしさを尊重し温もりあるホームでの生活を支援していく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移られた先へ面会に伺ったりお便りを出しており常に体制を整えている。	○	継続
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに上げ全員が統一した援助を行うように努めている。日々の変化に速やかに対応出来るように毎日の申し送り時にミニカンファレンスを実施し職員が利用者の思いを共有している。新入社員に対しては		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		○	全職員が必要と感じた時に直ぐに知る事ができるように、毎日の記録欄に添付する事により徹底できるし充実すると考える。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに沿って支援することで問題点や異常の早期発見に努めプランを見直し、援助内容を全員が認識、理解し実践できるように努めている。変化があった場合は申し送りを継続的に行い把握の徹底を図っている。	○	ケアプランにはあがっているが個別の日課表を作成し居室に貼ることで、本人はもとより家族の理解と安心がより得られるのではないかと考える。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	話し合い納得、了解のもとで計画が作成されている。変化があった場合、随時検討を行い本人が暮らしやすい様子に見直しを行っている。	○	モニタリング、カンファレンスの充実を図っていく。また、二つの棟が合同で一人の介護計画についての意見交換をすればより充実したものになっていくと考えている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の観察記録を通して変化が生じた場合はその時の状況に応じて速やかに計画の見直しを図っている。	○	継続



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録が不十分のため職員間の意識向上に努めながら実践している。	○	ケアプランに沿って記録を記入中。 共有したい事項、気づきには赤線を引くことで情報の共有を計っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係機関との連携を密にして医療面での対応を十分に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や地区の担当者又保育園、幼稚園、小学校の方々と交流を持ち協力を得ながら支援していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて希望のサービスが利用できるよう支援している。	○	地域のサービス事業者と十分な話し合いを継続する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に会議に参加して頂き情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時に相談して決めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の判断のもと専門医への相談受診体制がとられている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	関係機関の看護職員との連携を取りホーム内にも看護職員を配置して相談しながら健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の情報提供書の提供と病院関係者の方との情報交換を十分に行い利用者の方や家族が安心して入院生活が過ごせるように連携している。	○	入院中はお見舞いに行き本人及び家族の方が安心できる支援を行う。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に応じてかかりつけ医より家族、医師、関係者を交えて家族の気持ちを尊重しつつ、方針の共用化に努めている。	○	家族や本人、関係者の気持ちの変化に早めに気付き寄り添う。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に備えてかかりつけ医との連携を密に行える体制を整えている。	○	終末期に備えてその状況にならないとわからない、考えていないと言う家族へも広く分かりやすい説明を行い認識と理解を深めていただけるようにする。終末期を迎える家族に対しては出来る事と出来ない事ははっきり伝えていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分に話し合い納得していただき住み替えによる混乱を最小限に出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉かけ、挨拶の徹底に努めている。個人情報保護のため記録はイニシャルを用い申し送り時にも注意を払っている。	○ 方言であっても常に言葉かけには注意、配慮していく。そのような事実があった場合には注意し指導を行い継続して徹底を図っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常会話の中から思いやりや希望が言い表せるような雰囲気作りを職員が心がける。	○ 職員が早めに入居者の思いや希望の変化に気付く資質を高めていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大まかな日課表があるが個々の生活リズムを尊重し「自分」のペースを大事に生活していただけている。その都度、希望や意見を取り入れている。	○ 共同生活に支障がない限りは本人さんのペースを継続していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日化粧している人、行きつけの理美容室で整容されている人、服は自分で選ぶ、マニキュアなど各々の方の希望や好みが反映されている。日常着から夜は寝巻きへと更衣もできている。	○ 本人の希望や意見はもとより季節に応じた衣類のアドバイスなど継続して支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性だけでなく男性利用者もおやつ作りや食事に関わるようお手伝いを積極的に取り組まれ残存機能の維持が図れている。それらの行動がより穏やかな生活につながっている。	○ エプロンを持っている方が少ない為、今後は入所時に家族へ説明して使い慣れたエプロンを持参していただいたり、ホームでの手芸活動の時に製作していこうと考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙については健康、安全面を考慮して禁止しているが、お酒については行事などの時に本人さんの健康状態にも配慮して楽しんでいただくこともある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	殆どの方の排泄パターンがつかめており清潔保持が出来る。各々排泄表に記録され問題行動の発生の防止も出来る。排便コントロール表も作成してある。	○	より快適な排泄ライフがおくれることにより生活の場が拡大していくように継続して支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が決まっており温泉を利用した大浴場で入浴を楽しんでいただいている。入浴順番も苦情が出ないように毎回順おくりになっている。入浴できない時にはユニットバス利用や清拭等実施している。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や睡眠バランスを考え状況に応じて昼寝の時間を取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の体操、家事、裁縫、清掃、生け花など能力に応じて役割をしていただいている。お元気な頃の生活歴や趣味を把握し楽しみながらやっていただいている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て一人ひとりの希望や力に応じて本人管理、ホーム管理としている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとり希望を伺い散髪等や買い物、美容室などでかけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ、散歩、花見など外出の機会を設けている。	○	ADLの重度化に伴い希望する場所へ行けない場合には家族へ協力をお願いしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に取次ぎをしコードレス電話で対応している。年賀状、暑中見舞い等字が書ける方には職員が支援し書いていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族への働きかけ、知人や友人の方にも面会に来て頂くよう声かけしてもらっている。面会時の対応に努め次へつなげている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの身体・精神的状況を把握し見守り声かけ誘導をきちんと行い身体拘束をしないケアを行っている。	○	職員間の共通意識を高めお互いに声をかけあい向上していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていないが、冬季暗くなるのが早い時期は早めの施錠をし事故につながないよう努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを尊重しつつ所在や様子が常に把握できるように見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて持ち物の管理を行い危険を防ぐよう取り組んでいる。	○	入居時の持ち物点検後面会時の家族からの持ち物点検を十分に確認し把握する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒予防の体操や歩行訓練、嚥下状態に応じた形態の食事や誤嚥防止の為複数職員での確認を行っている。	○	新入職員への周知をしていく事と日頃からの事故防止への心がけを徹底していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	<p>一日の配薬箱を設けその都度確認している。申し送りノートで全員が共有している。各棟ごとに毎日の申し送りに服薬管理がある。同姓の方には赤印をつけテーブルの配席を遠くして誤嚥防止に努めている。各個人別に本人の好む牛乳や乳製品を購入してある。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量をチェック表に記入。 ・毎月の体重管理。 ・調理法や盛り付け、食事の環境づくり		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染マニュアルを作成して実行している。 ・予防接種に関しては家族の同意を得ている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・1日1回は必ず冷蔵庫の掃除の徹底。 ・毎夜、まな板・ふきん類の漂白の実施。 ・新鮮食材の調達。 ・毎食後の台所の掃除		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			車椅子や歩行不安定な方の安全に配慮して取り外し可能なスロープを準備して対応しているが外部からの面会者などへの配慮として玄関に常時スロープ設置も検討。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を生けたり各カレンダーの作成や行事食の提供、活動を紹介する写真の展示など工夫をしている。ホールの壁一面にカラフルな人形の数々を配し季節とストーリー性を盛り込んだ作品を制作中である。	○	・ホームだけでなく外部(子ども、地域の人々)の方々と一緒に作成していきたいと考えている。 ・10月より地域4区の独居老人の方との交流を検討中である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブルはその時々によって移動したり配置換えを行っている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた持ち物をお願いしているが、時にサイズが合わないと新しい物を購入されたりする事があるので、十分入居前に説明をして本人が居心地よく過ごせる工夫をしていく。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し常に調整に心がけている。窓の開閉に心がけ換気を行い便臭・尿臭等速やかに処理し不快感を与えないよう配慮している。	○	居室、トイレの配置等から臭いへの配慮を心がけるよう努めたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かすため手すりが設置してあるが一人ひとりの身体機能を安全かつ低下させないよう運動等で工夫している。	○	加齢と共に低下する身体機能に応じて押し車や車椅子利用者が増えている為安全面に配慮する必要がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎日の生活の中での小さな変化にも早めに職員が気付き混乱や失敗を防ぐよう支援している。	○	職員間で一人ひとりのわかる力を共有し混乱しないよう支援し続ける。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにて外気浴や雑談、又、箱庭の草取りや花植えを行っている。足湯へ出かけ利用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の中にあるグループホームとしての存在を理解して頂ける様に、積極的に働きかけている。車で10分程の場所に「長寿農園」と名付けて畑をはじめ、作物作りや・花を

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム といはた
(ユニット名)	あせび
所在地 (県・市町村名)	熊本県 阿蘇市 内牧 117
記入者名 (管理者)	下村 壽子
記入日	平成 20 年 11 月 28 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方と自然な交流が出来るサービスの提供を新しく加え4項目の理念が挙げられている。各棟に掲示しており、職員が共通したサービス、支援を行うように努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示しており、再認識できるよう目の届くところにある。定例会・棟会議など必ず月1～2回のミーティングの場が設けられている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2月に1回の運営推進会議を実施し地域の方にも参加してもらい意見交換を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物に行き又日頃より挨拶には心がけ顔見知りになるように心掛けている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動、町の老人会の行事に参加しカラオケや体操などに参加している。	○	ホームの前の空き地を活用し交流の場となるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ゴミ拾いや清掃活動への参加、文化祭や地域の行事に参加している。	○	奉仕作業への取り組みをする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を活かしていけるように全体会議にて話し合い、改善点は努めて改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、ホーム内の実際や現状を報告し有意義な意見交換をサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外にも必要時には行き来したり、電話にて連絡・相談をしサービスの質の向上につなげている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	必要に応じて勉強していきいつでもサポートできる体制をとっておく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で開かれる講習会や勉強会に参加し参加者が他の職員に会議や記録を通して情報交換を行っている。	○	お互いの介護・支援状況を見直し・疑問点や問題点は話し合いより良いサービス提供が出来るように実践している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	会議などで職員が意見を出しやすいようにする。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や交通情報は掲示板に貼ってあり、いつでも目を通すことが出来る。	○	向上心を持って研修会等への参加を増やしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加してフットワーク作りに努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休や連休の勤務作成や、話が聞ける雰囲気作りに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定例会等会議の中で、職員の思いや考え、希望を出来るだけ傾聴している。必要な時は、個々に相談に応じている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりじっくり傾聴している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族や面会時等、家族の方と出来るだけ関わり、話す機会を作っている。要望や不安等を聞き取り、一緒に解決出来るように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に「今必要な事は何か」を見極め、他のサービス利用も考えて対応する。	○	他のサービス業者との日々の連携に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの生活を理解し、馴染めるように努力・工夫をしている。入居前に訪問して馴れていただく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材切り、洗濯干し・洗濯物たたみ、掃除等自立して出来る所を見極め、一緒に行ってもらおうよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、日常の様子を伝えたり、実際に見て頂いたりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族の方の協力を得ながらより良い関係を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂いたり、写真などで思い出して頂くように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	月に2～3回は合同でおやつレクリエーション作りをしたり、協同でできる作業や話し易いように席を配慮する等関わり合いを支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	次に行かれた施設や病院への面会・見舞いに伺っている。又必要時にはいつでも関わりが持てるような体制作りが出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にも上げており、希望に近い支援が出来るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握し、尊重したサービス提供に努めている。家族や関係者、本人からとの会話の中で今までの経験等を聞きその上で職員同士の情報交換を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員で関わり、変化に早めに気づき総合的に支援できるように努めている。有する力については職員が把握し同じ対応を取るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成にはケアマネージャーだけでなく、職員全員が作成に取り組んでおり、統一した入居者本位の支援に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要な時は作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項、申し送り事項を活用し活かしている。	○	職員間での個人差が出ない様に共有していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制で早期治療、悪化の防止が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	園児や小中学生の訪問があり、交流してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて外出支援タクシーの利用等、他のサービス利用の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員と会議等で情報交換して協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に相談し決めている。専門的治療に関しては、主治医の紹介で適切な医療を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要性に応じて主治医を通して行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されている。介護職員と相談出来る関係が出来ている。看護師と主治医との連携も取れる体制が出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はサマリーの提出をし、病院関係者からの情報も共有している。入院中はお見舞いをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医から家族へ早めの説明をし、希望を確認して支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にし、主治医の指示を守り、職員間で見極めをして定期的な変化に応じ話し合っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な説明を聞き、出来るだけ多くの情報を頂き、無理のない受け入れに心がけてダメージを少しでも軽く出来るように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録において名前が必要な時はイニシャルで記入している。声かけや言葉遣いは常に気を配り働きかけている。	○ 人生の先輩なので、言動に十分に注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	援助する前に本人の意思を確認し、安全である事を判断した上で入居者主体と一緒に行動・参加するようにしている。	○ 面会時などに家族の希望があるときは、叶えられるものであれば協力している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの大まかな一日の流れはあるが、本人の希望や意思により好きなように過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に美容室へカットに行っている。毛染めやパーマ等時期を見ながら対応している。個人の化粧品等購入の支援もしている。	○ 女性は特におしゃれに敏感なのでその意志を尊重し、服のコーディネートにも気配りをする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、配膳、下膳等一緒にして頂いている。スタッフは利用者の好みを把握しており、行事や特別な日に取り入れたりしている。	○ 食事に関わるレクレーション(餃子作りや饅頭作り等)多くし好不評メニューを検討し今後の献立作りに役立てていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事等での飲酒は可能である。希望あれば、日常に少量の飲酒はして頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを、把握するよう記録に残している。必要時は、時間誘導を行い失禁を最小限とするよう努める。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	火曜日、金曜日と週二回温泉大浴場にて入浴して頂いている。	○	火曜日、金曜日以外に希望があればユニットバスの利用をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、好きな時、希望される時に休んで頂いている。布団干しの表を作り、定期的に布団干しを実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の体操、家事手伝い、おやつ作り、清掃活動などその時々で能力に応じて楽しんで出来る役割をして頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する買い物は可能な方は職員が同行している。所持金の管理の出来る方は所持しているが、基本的には家族を通してホームで管理している。領収書と明細を月に一回家族に報告している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等その日の希望に応じて行っている。地域の催しや、花見等、参加の支援に努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の風景を楽しむ為のドライブを兼ねて、神社参拝や名物店に立ち寄り、饅頭や団子等を食べる。演劇や音楽会などの外出の機会を設けている。	○	早めに計画をし、より多くの家族の参加をお願いします。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族や家族等に電話がしたいと希望される時は支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族会や誕生日会への出席を事前に呼びかけている。普段の訪問の際はお茶やお菓子でもてなし、居室だけでなくダイニングやリビングでゆっくり歓談し、楽しんで頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りや声かけにより、身体拘束のない援助を行っている。	○	研修会などに参加し、職員一人ひとりの知識を高め、意識の向上に努める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、開放的な取り組みをしている。徘徊が続く場合や特別な事例がある場合に鍵をかける事もある。夕方5時から施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の希望に応じ、本人の好きなように一日を過ごして頂いている。定期的な声かけや巡視により、安全に配慮されている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管・管理能力をきちんと把握して一人ひとりの状態に応じて対応している。	○	定期的に持ち物の確認をして危険を防ぐ。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒予防の体操、食べ易い大きさ、トロミ対応、や、投薬は誤薬を防ぐため複数の職員で確認し、服用時は見守る。防火管理者を決め火災訓練を行っている。	○	防災訓練で全職員の意識向上を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	主治医に連絡し、指示に従う。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回の防災訓練をして、どこにどうやって避難するか話し合っている。	○	近隣の方々へは日頃よりホームへの理解と協力をお願い出来るよう働きかけている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や面会時、電話等で報告し対策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲・顔色・バイタルサインをチェックをし、異常時は主治医に連絡をして、指示を受け又、状況を家族に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を理解確認が出来るように薬局からの薬の説明書をケース記録帳に綴じている。薬の変更・追加時は誤薬を防ぐ為複数の職員で確認し服用してもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起床時に冷水、おやつにお芋、バナナ、ヨーグルト副食にごぼう等繊維の多い食品を取り入れている。又可能な限り運動等もしてもらう。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内の清潔に努め、義歯はポリドントを使い消毒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じてトロミをつけるなどの工夫や、好き嫌いも考慮してバランスを考えて必要量の確保に努めている。	○	必要栄養分、水分量は一日を通して確保出来るよう努めて支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いや・うがいの励行などに心掛け、インフルエンザは毎年家族の了解を得て接種している。疥癬は消毒し別に洗濯している。	○	マニュアルをp作成しているので、職員全員に周知徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具はハイターに浸し、綺麗に洗い乾燥に努めている。新鮮な食材を毎日購入している。	○	マニュアル作成は注意事項の厳守をスタッフ全員心がけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関までのアプローチには四季の移ろいを感じさせるような木立があり、駐車場も広く整えてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂・リビングには、季節毎に飾りを変えて季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな所に座れる様に椅子を揃えてあり、自由に過ごせる。冬はコタツを置き家庭的な雰囲気作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた馴染みの物が一つでも多く配置出来るよう家族へ声かけ協力して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し、又、体感温度に敏感になり一人ひとりの状況に応じて対応している。	○	冷暖房の配置や床暖房の利用を状況に応じて行う。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かすよう手すり等を設置してあるが、加齢と共に車椅子や介助者が増えている。	○	本人の機能に応じた安全な支援をする工夫。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの理解力を十分見極め、職員が共有した支援をすることで混乱を防ぐ。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで日向ぼっこしたり、庭に咲いている草木花を眺めてもらい、四季を感じてもらっている。前庭には足湯があり、小学生や外からの人との交流の場としている。		献立

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりと穏やかで安らぎのある日々を過ごして頂くように支援、一方的なお世話ではなく一人ひとりの個々の残存機能を活かしています。出来る事はしていただき自分ら